＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

お待たせ致しました。好評のレポートがここに完成しました！　きっとここにビジネスチャンスがあります！！

Advanced Market Report

LCD / FPD 市場戦略年鑑　2002-03　のご案内

特集：LCD 産業 14 年の歩みとメーカーの業績・競争力推移

●本レポートのこれまでにない特徴

1．FPD の大型用途のみならず、中小型にもスポットライトをあて、生産動向・カラー化動向・サイズ動向をワールドワイド 2007 年まで予測したうえで、各 FPD の需要予測として積み上げる。
2．LCD 業界の収益動向や業界構造の問題点を俯瞰する。
3．大好評を博した「2001-02 年版」に、さらに 14 年間にわたる LCD メーカーの業績・投資効率・減価償却動向を追加。もちろん毎年好評の収益動向も記し、他社の既存レポート類との差別化を図っている。

●本レポートのコンテンツと内容

0．Executive Summary

1．特集：LCD 産業 14 年の歩みとメーカーの業績・競争力推移

＜結論と内容＞
・1992 年からの 10 年間で TN, STN は年平均 8.4%、TFT は 36.6%の急成長。LCD トータルでは 21.7%の伸長率。
・日本の上位 10 社の売上は 10 年間で 3 倍になったが、設備投資効率は悪く、減価償却費のウェイトは平均 18%。
・この減価償却費比率は製造業平均の 4 倍強。電力会社や通信キャリア並で、巨大な装置産業の様相を呈している。
・これまで好収益体質であった企業は、シャープ、エプソン、オプトレックス等中小型メーカーであったが、中小型市場も過当競争で利益が上がりにくい体質になってしまった。
・99 年度に大型 TFT メーカーの利益率が軒並み黒字に転じたのも束の間、2001 年度は各社減収・減益。
・大型 TFT では韓国・台湾の競争力が圧倒的になり、日本勢は中国シフトや付加価値戦略の展開が必要。
・ドラスティックな業界再編がないと、参入企業は厳しい。

2．FPD / LCD/ CRT のワールドワイド中長期需要予測（2000 年～2007 年）

＜対象ディスプレイ＞TN-LCD, STN, カラーSTN, aSi･TFT, 高温 pSi･TFT, 低温 pSi･TFT, 反射型 LCD,
プラスチック LCD, PDP, O-ELD, I-ELD, VFD, FED, LED, DMD, CRT, Flat CRT
各、⑴市場予測（数量）、⑵市場金額予測、⑶価格予測、⑷用途構成、⑸インチ別予測、⑹カラー化動向、⑺メーカー動向、⑻技術動向、⑼その他重要な事項、等を収録

＜結論と内容＞
・2002 年の FPD のワールドワイドでの市場スケールは約 4.2 兆円と、閉塞感のあった 2001 年と比較して 30%強の成長が予測される。2007 年は FPD7.6 兆円となり、アモルファスシリコン TFT 以外に、低温ポリシリコン TFT、PDP、有機 ELD、FED などの急成長が予測される。
・カラーSTN は TFT との競合が見え始め、2-3 年内に需要は頭打ちが予想される。
・大型 aSi･TFT は需給逼迫による市況安定と数量的な需要増があり、02 年には 2 兆円規模にまで迫る。
・中小型 aSi･TFT は過当競争と携帯電話の伸び悩みの二重苦。02 年からは大きく需要を伸ばす。

∞ Infinite Technologies, 2002

・低温 pSi･TFT は各社新増設で、一気に拡大、02 年には 1,000 億円を超え、07 年には 4,500 億円にまで成長。
・PDP は 01-02 年にテレビの大幅需要増。テレビ組立ラインの中国シフトが活性化し、一気に単価は下落傾向へ。
・有機 ELD は携帯電話向けに実績が出るも、現状では TFT-LCD にやや押される。大型化、フルカラー化、アクティブマトリクス化に課題を残すが、03 年頃から大型フルカラー品の市場投入で、テイクオフを期待。
・無機 ELD は耐震・高応答速度・耐寒などユニークな性能を持つが、コスト・輝度・発色性に課題が多い。
・VFD は安定・成熟局面にあるが、カラーディスプレイの各セグメントへの浸透により、漸増に留まる。
・FED は 2004 年からテレビ向けの市場投入が始まる。
・CRT はテレビ用、PC 用とも LCD, PDP の健闘があり、苦戦。チューブ撤退企業が相次ぐ。

３． FPD / LCD/ CRT のセグメント別競合予測

＜対象セグメント＞①大型（10 インチ以上）：PC モニター、ラージノート PC、テレビ、ノン PC モニター、その他（WP 等）
②中小型：スモールノート PC、PDA・Handheld PC、家庭用 WEB 端末、デジタルセルラー、簡易型セルラー、ページャー、小型 TV・ポータブル DVD、ビデオカメラ、デジタルスチルカメラ、プロジェクター、AV フロントパネル、リモコン、ポケットゲーム、パチンコ、車載ディスプレイ・ナビゲーション、インパネ表示用、FA/計測機器、メディカル機器、POS/ECR、クロック・ウオッチ、コピーマシン、電卓、他各種
各、⑴ディスプレイ需要、⑵国別・地域別需要、⑶方式別ディスプレイ需要、⑷インチサイズ、⑸カラー化動向、⑹技術動向、⑺ユーザー動向、⑻その他重要な事項、等を収録

＜結論と内容＞
・PC 用モニターでは TFT15"にみならず価格のこなれた 17"市場も急拡大、2007 年には 6 割強が FPD 化。高精細モニターおよび更なる大型化が進行しそうな趨勢である。
・ノート PC はメインストリームが A4=14-15"、B5=10-12"と二極化。2007 年には全体の 36%が高精細化する。
・大型テレビは据置型と壁掛・移動型と棲み分けながら、PDP、LCD の需要が大幅増加。今後、応答速度に優れる OELD や CRT ライクな FED の市場投入もあり、各デバイスが競合・補完しながら需要を伸ばして行くと予測。
・モバイル向けは反射型 LCD の搭載が相次いでいるが、各端末の使用条件によって、中期的には棲分けが起こるが、実績が大きく精細度に優れる TFT-LCD が一歩リード。
・セルラー用は、2001 年には需要の下落があったが、CDMA 化で 2002 年後半より成長局面へ。2007 年の aSi･TFT 化率 47%、OELD 化率 9%。より精細度が要求されるようになり低温ポリシリコンも拡大。
・AV 関連ではビューファインダー型カメラとデータプロジェクターで高温ポリを採用している他は、低温ポリが飛躍的に拡大。フロントパネルやプロジェクターで OELD にも期待。
・カーディスプレイは、これまでのインパネ内のキャラクター表示部、ナビゲーション、VICS や ETC 表示、カーPC、車載 TV を統合するものとして注目される。自動車生産台数が頭打ちするなか、1 台の車に 2-6 個のディスプレイが搭載されるため、中小型の最大用途の一つになる可能性を孕むが、現状では目立った動きは見られない。

●発刊内容

＜発刊日＞　2002 年 9 月 1 日
＜体　裁＞　基本的に **PDF ファイル版（CD-ROM）**のみでの供給となります。
＜価　格＞　特価（9 月 30 日以前のご発注）：**100,000 円**（税別）
定価（10 月 1 日以降のご発注）：120,000 円（税別）
＜申　込＞　付属の注文書に必要事項をご記入のうえ E-mail または FAX でご送付下さい。お電話でも結構です。

※**『LCD 部材・需給年鑑　2003』は、2003 年 2 月 1 日頃刊行**予定です。別途、ご案内申し上げます。

※**『有機 EL ビジネス最前線』**（共著）が **7 月に工業調査会より発刊**になりました。詳細は下記まで。
http://www.kcp-net.jp　もしくは、**03-3817-4706** へ！

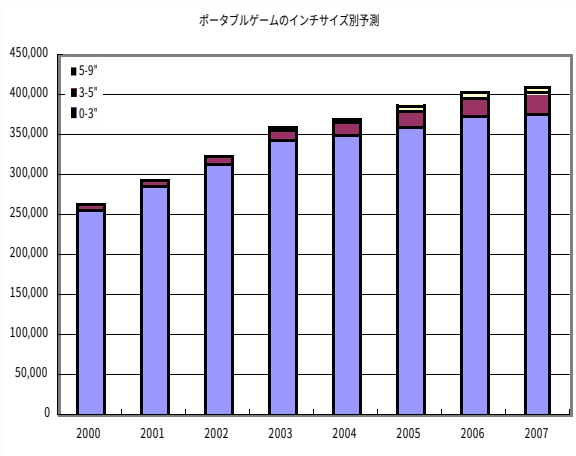
∞ Infinite Technologies, 2002

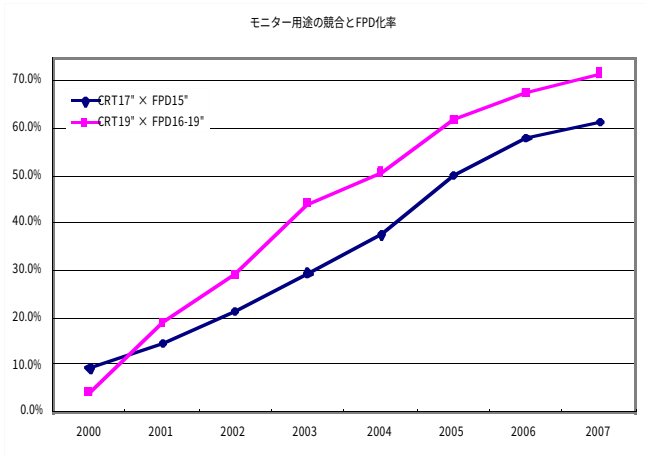
●内容見本

■PDA 類の方式別・インチサイズ別のカラー化動向予測（H-PC、メール専用端末、電子ペーパー等を含む）

(K Units)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	CAGR
STN 3-5"	500	1,000	1,500	2,000	2,900	3,500	4,200	5,000	38.9%
aSi･TFT 3-5"	3,800	5,400	7,900	12,200	17,800	24,100	28,400	32,200	35.7%
pSi･TFT 3-5"	100	200	500	900	1,300	1,700	2,600	3,500	66.2%
OELD 3-5"	0	0	0	0	100	200	500	1,300	
STN 5-9"	1,000	1,100	1,300	1,500	1,200	1,000	1,000	1,000	0.0%
aSi･TFT 5-9"	1,100	1,400	1,600	1,900	2,200	2,400	2,600	2,800	14.3%
pSi･TFT 5-9"	0	0	0	100	200	300	400	500	
OELD 5-9"	0	0	0	0	0	100	200	400	
Total	6,500	9,100	12,800	18,600	25,700	33,300	39,900	46,700	32.5%

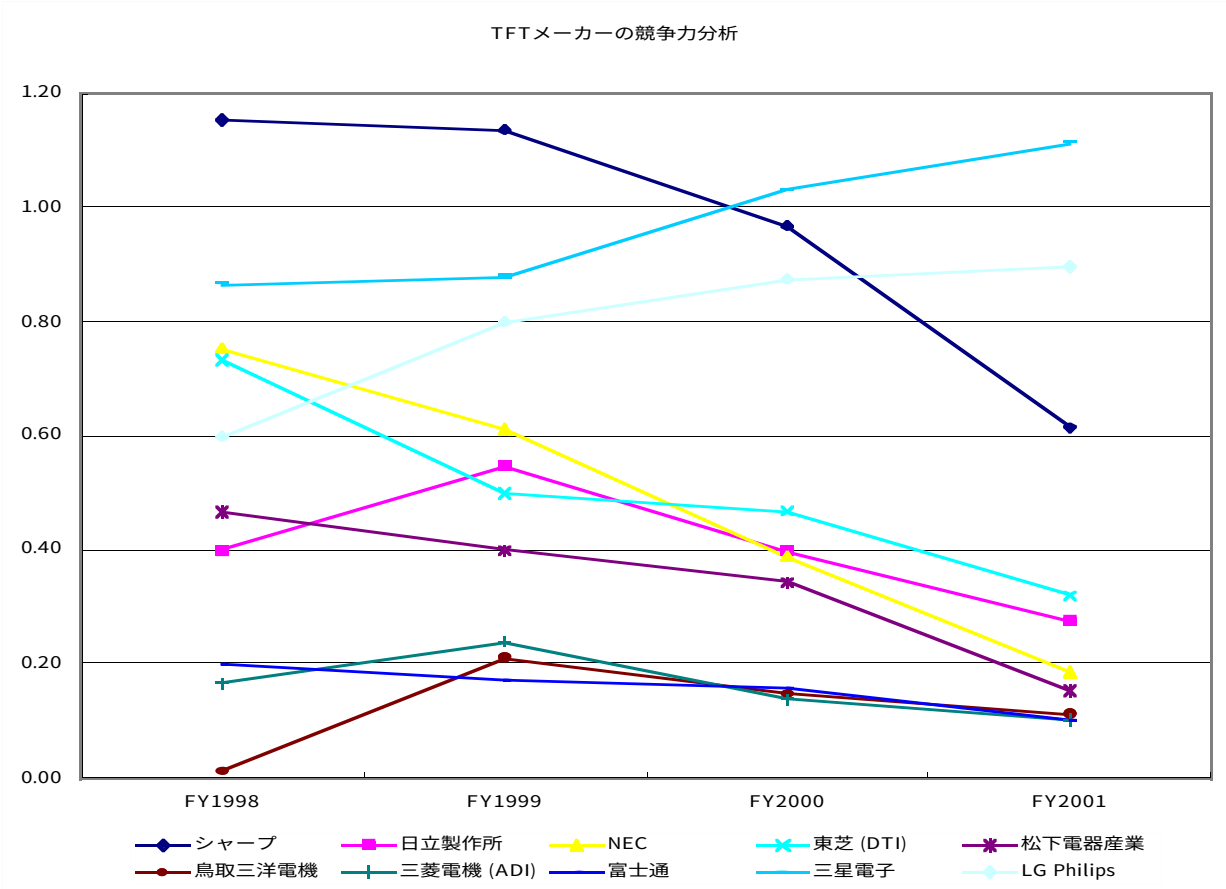




■A 社の業績推移

(Mil. Yen)

	売上高	指数 (92=100)	設備投資額	投資効率	減価償却費推定	償却／売上高
1992	61,000	100	5,000	0.5	5,732	9.4%
1993	60,000	98	5,000	-0.2	5,193	8.7%
1994	68,000	111	10,000	1.6	7,080	10.4%
1995	71,000	116	10,000	0.3	7,922	11.2%
1996	70,000	115	10,000	-0.1	8,614	12.3%
1997	74,000	121	10,000	0.4	9,002	12.2%
1998	95,000	156	11,000	2.1	9,440	9.9%
1999	150,000	246	24,000	5.0	15,381	10.3%
2000	220,000	361	50,000	2.9	30,107	13.7%
2001	200,000	328	50,000	-0.4	38,383	19.2%



お申し込みまたは問合せ先

（株）インフィニット・テクノロジーズ　　大垣　城治

〒158-0083　東京都世田谷区奥沢 6-5-10-502　　**☎ 03-3702-0526　　菱 03-3702-0515**

E-mail: george@infinite-tec.com　　会社概要は、**http://infinite-tec.com** へ！

注　文　書

発注日：　　年　　月　　日

『**LCD / FPD 市場戦略年鑑**　2002-03』を以下の通り申し込みます。

貴社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　部数　PDF 版：　　部

所在地　〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

部署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご担当＿＿＿＿＿＿＿＿　☎＿＿＿＿＿＿＿＿　菱＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

∞ Infinite Technologies, 2002